



憲法9条は核との共存を許しません！

■放射能から子どもたちを守ろう！

10月30日、福島市で開催された『なくせ！原発大集会』には1万人超の参加者が集まり、原発事故への怒りと、福島の人達に手を差しのべたいという願いが大きなまとまりになりました。福島の子どものための「大声大会」では「外でもつとあそびたい！」「という絶叫に「遊ばせたい！」「と大人達が応じ、参加者の胸を締めつける場面もありました。



東葛地域でも、放射能汚染から子どもたちを守ろうと、たくさんの人達が立ち上がり、市に要求を届けています。

原子力委員会が行った世論調査（9月27日発表）で、98パーセントの人達が「原子力発電を廃止すべき」と回答しました。驚異的な数字です。それなのに、ストレステスト（耐性評価）を国に提出して、原発再稼働の承認を得ようとする動きが大飯原発3、4号機（福井県）、伊方原発3号機（愛媛県）で続き、それぞれの地域の軋轢になろうとしています。

■崩れた安全神話

地震大国に原発を建設することには、長期にわたる反対運動がありました。しかし官民一体となった推進派により、押し切られてしまいました。「原子力の平和利用」と宣伝され、安全神話が振りまかれ、電力業界の大きな資金により、各地元の反対運動も引き裂かれて、いつの間にか、狭い日本列島に54基の原発を数えるまでになっています。

先日やつと映像で公開された福島原発の惨状、故郷を失ったばかりか、家族離散で避難生活を送る人達、18歳以下36万人の県民の生涯にわたる甲状腺検査と全県民200万人の健康管理調査、すさまじい量の処理不可能な汚染物質など、耐え難いものになっています。

■「さようなら原発！」

平和憲法を堅持する私たちは、核兵器を持つことなど出来ません。でも原発ならいいのでしょうか？ 原発から生じるプルトニウムは原爆の材料となることは広く知られています。政治家のなかには、原発建設の必要を核武装と結びつけて論じる者もいます。

現在、テロ対策として街中、駅、電車内などに「特別警戒中」とテロップが流れています。今や私たちは、原発がテロの標的になった時の恐怖を、リアルに想像することが出来ます。原発の存在それ自体が、いったんテロの標的になれば、核攻撃にさらされた場合と同じ被害を生むのです。

憲法9条は、核との共存を許さないので。

九条の会・流山

■連絡先
TEL/FAX

石林紀四郎 (04-7154-7511) 三原真子 (04-7152-6559)
山田洋子 (04-7144-3993)